

A39 (三輪・纏向・織田)

【 太陽の道 伊勢神宮～伊弉諾神社 】

～ 桧原神社～



写真家の小川光三氏は、彼の著書「大和の原像」の中で、伊勢神宮が元々あった場所である齋宮と淡路島の伊勢の森の南にある伊弉諾神社いざなぎを結ぶ東西の直線上に古代の祭祀遺跡や太陽神（天照大神）を祀る神社が点在し、これらが北緯三四度三三分のライン上にあることから、これを「太陽の道」と名付けられました。

桜井市三輪にある桧原神社は、このライン上に位置するとされています。ほかにも、三輪山や二上山、卑弥呼の墓と言われている箸墓古墳や長谷寺等も「太陽の道」上に並んでいるとされています。古代の人たちの世界観を空間的に描いたこの概念は、意図的なものであったのでしょうか。古代の人々の自然への畏敬の念を垣間見ると共に、私たちが神秘的な世界に誘ってくれます。

(桜井市 三輪)